

会議要録

発注者名	浪江町企画財政課	受注者名 (LB)	ランドブレイン株式会社
会議の名称	第4回 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会		
開催日時	令和7年12月2日(火) 14:00~17:00		
開催場所	浪江町役場 2階大会議室		
構成員	出席者：(別紙名簿) 事務局：浪江町企画財政課 受託者：ランドブレイン㈱		
次第	1 開会 2 議事 パブリックコメント結果報告・意見反映<資料1> 後期基本計画(案)の確認<資料2> 後期基本計画 子ども版について<資料5> 後期基本計画書(概要版)・(施策編)について<資料3><資料4> 3 その他 4 閉会		
質疑応答			
次第2	パブリックコメント結果報告・意見反映<資料1>		
前司委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明 国際リニアコライダーとはどういうものか。		
事務局	電子と陽電子をぶつけて素粒子を発生させ測定することで、そのデータを研究に活用していくための巨大な施設である。 世界レベルで誘致合戦になっており、国内だと岩手が有力と言われているが、この浪江に誘致できないかという趣旨のご意見と認識している。		
前司委員	要は実験施設の誘致に取り組んで、それに関係する企業とか人を呼び込めるだろうということか。		
半谷委員	誘致に成功して建設されれば何千人、何万人という研究者が集まってくれる施設になるだろうが、失敗では何もならない。 そういう施設が人々の暮らしにどう関係するのか、このような文言ではわからない。		
関谷委員長	人々の暮らしという面では関係はあまりないだろう。要は施設を作れば莫大な事業費が生じて関係者にメリットがある面と、長期的には研究者が訪れてくる感じではないか。ここに書いてあるのは「誘致」に手を挙げてほしいという意見だが、手を挙げて来てくれるようなものではない。町としては書く必要は無いということで判断したのではないか。		
佐藤(秀)委員	現状は中間貯蔵のものを他に運ぶ場所を探しているような段階で、こういったものを誘致するような場所があるじゃないか、ということになりかねない。誘致は必要ないと考える。		
関谷委員長	町としてそういう計画もないし福島県としても計画は無いだろう。 いずれにしても、この段階で計画書に明記する内容ではない考え方である。		
事務局	復興計画で記載するものではなく、もし手をあげるとてもそれは本委員会とは別で議論していただくものだと思う。		
関谷委員長			

小林委員	資料 1 の 9 ページ No. 73 について、地元出身の大学生、社会人も入れたらどうかという意見であるが、福島県としても流出してしまった大学生や社会人に対してアンケートを取っていて、魅力的な企業ややりがいのある企業があったら U ターンしたいという結果もあるので、町としても地元高校生だけではなく、もう少し幅を持たせてもいいと思う。
関谷委員長	地元の高校生に限定する必要もないかと思うので、修正いただきたい。地元高校生や関心のある大学生という書き方でもいいし、県内の高校生や関心のある大学生という書き方でもいいと思うので、もう少し広く書いていただいた方がいいと思う。
事務局	反映する形で回答内容を検討する。
前司委員	資料 1 の 8 ページの No. 70 のエネルギー関係の回答はこれでいいと思う。No. 79 と No. 83 は記載の通り、参考程度でいいと思う。最後に No. 80 について、確かに田村市でヒメジ理化株式会社が建設しており、FH2R が商用化して供給ができなくなったときのために、ヒメジ理化さんにエントリーしているが、限定する、しないとか書く必要性はないのではないか。強いて言えば FH2R がグリーン水素なので、グリーン水素の調達を進めていき、再生可能エネルギーで作られた水素を使いますという伝え方がいいと思った。
青木委員	町としては町内の FH2R を有効活用する考えは変わらないと思うので、本文の記載でも構わないと思う。ただ、ほかの回答を見ると、「検討します」という回答があり、意見を出した方からすれば何故かと思われるのではないか。
関谷委員長	回答案はあくまで役場としての回答であり、我々委員会としては、この回答案がいかどうかの議論ではなく、意見に対して計画書に反映したほうがいいものがあるかどうかを議論したいと思っている。私自身も回答案はもう少し丁寧でもいいのではないかと思うが、それは意見として言っていただいて、我々委員会としてはこの項目、特に 79 ページのところをどう考えるのか議論したい。FH2R は確かに浪江町として実現すると書かざるを得ないのではないかと思う。FH2R 以外の水素を使わないとは記載していないので、FH2R をちゃんと推進していきますという考え方だと思う。限定すべきではないという意見はそうであるが、削除するものでもないかと思うので、「限定はしておりません」で、記載していくだければいいのではないか。あと私個人の意見で、No. 84~86 の意見について、検証ももちろん必要だと思うがこの意見はどちらかというと地域に対する意見で復興計画に記載する内容とは少々違うところかと思う。今後、次期の復興計画というより、町の政策の参考にさせていただきますでいいのではないか。
佐藤(秀)委員	委員の意見も踏まえて少し修正が必要だと思うので、事務局にて修正いただきこの場の議論としては閉じたいと思う。
関谷委員長	資料 1 の No. 81 の 79 ページのゴミ問題だが、ゴミステーションおよびリサイクルハウスの適切な設置と記載することはできないか。
事務局	佐藤委員からのご意見ということで「リサイクルハウス」の文言も加えていただいてもよろしいか。
次第 2	79 頁の一番下の段落に文言を入れるようにしたい。 後期基本計画 子ども版について <資料 5> ・事務局説明

関谷委員長	小学生版と中学生版を作ることはできるか。
事務局	別々に作成することは想定していなかったため、別々に作成したほうが良いとなれば検討する必要がある。
関谷委員長	小学生版とすれば、記載内容も全部変えて、漢字も使わないぐらいの方がいいだろう。中学生版の方は振り仮名振るくらい、あるいは振らなくてもいい気もする。
半谷委員	6頁以降の内容は、小学生が見たところで多分何もわからないのではないか。就労支援、人材育成とか書いてあって、これを読んで、小学生は何を理解できるのかと思う。すごく丁寧に噛み砕いて説明してくれる先生なり大人がいないと基本目標Ⅰ～Ⅴのところは難しいのかと思う。
関谷委員長	働く場所と仕事とかそんな感じになるか。
半谷委員	もう少し絵でも入ればイメージがつくかもしれない。
事務局	現在浪江町で実施している「こども議会」は、小学5年生以上と中学生で構成されているが、学校の授業として、こども議会に向けての学びの時間を設けており、先生方が復興計画の概要版を用いて説明する機会もあると聞いている。おそらく就労支援であるとか、難しい文言については先生が説明の中で補足してくれる部分だと考えていましたが、ご意見の通りもう少し表現内容は検討させていただきたい。また学校からは、授業の中でメモ書きスペースがあると活用しやすいのでは、というご意見もいただいており、紙面にメモ欄を設けたり、裏表紙面に、将来の浪江町はどんなまちであるかなどの記載できるところを設けている。
小林委員	おそらくこども達は、「ふーん」で終わってしまう気がするので、見てもらうためのデザインをかなり工夫した方がいいと思う。他の総合計画の子供版など調べてみたが、小野町のこども版が見やすかったので参考になると思う。1頁ずつ話を進めていくのもいいかと思うが、見開き1頁で伝えるところがあってもいいと思った。基本目標もバラバラに見えるので1画面でまとめて、言葉が1つに並んでいるような、視覚的に入りやすいものがいいのかと思う。せっかく作るのなら、いろんな頁にいろんなバージョンの「うけどん」が入っていると見た目も可愛くなると思う。統計グラフの情報も大事だと思うが、浪江町はこういう状態でこれをするところになっていくよというのが絵で分かった方がいいのではないか。
馬場委員	小学生であれば震災後に生まれているので、話を聞いて理解はしているとは思うが、冒頭1頁にグラフ、2頁に住民アンケートを並べるよりも、3頁の町の復興に向けてというところを1頁にして復興計画をつくりましょうという流れで3頁くらいからグラフが出てくる方がいいのではないか。あと画像がないとイメージがつかない。
関谷委員長	まず東日本大震災の説明について、地震と津波だけで原子力発電所の事故があったことも書いてないので、最初の段階で丁寧に書いて復興に取り組んでいることが導入部になるのではないか。冒頭に掲載している「様子」というのも取り掛かりとしては大事かと思う。
高谷委員	後半の基本目標はタイトルだけ書いてあって、何をするかが書いていない。言葉を簡略にするだけではなく、大人達はこういうことを考えて、こういうことをやるんですということを目指すことの一番に書いているが、取組内容も入れた方がいい。例えば基本目標Ⅲの施策1、帰還困難区域・特定復興再生拠点区域だけ書いてあって、一体何をするのかがわからない。むしろ項目を上げるよりも、具体的にこんなことをして

	くれるんだ、こんなことやろうと思っているんだというメッセージを伝えてあげるという観点から見直していただいた方がいいかと思う。
小林委員	子ども版の「子」が漢字になっているが、浪江町のこども計画は平仮名のこどもなので合わせた方がいいかと思う。
前司委員	文言としては不要だが、今、炎上中のなみえ焼そばのイラストなり写真を入れてはどうか。
葛西委員	自分が子どもの頃に、どんなことを考えながらこういった資料を読んでいたか全く思い出せなかった。同じぐらいの少年や少女が、これを読んで、例えば、基本目標Ⅱの未来を担う人づくりの施策3、震災の記憶の伝承と記載されている横に、おじいちゃんおばあちゃんの話を聞けばいいのかとか、自分がこれを読んで行動を起こしてみようというヒントが、コメントとしてあるとそういうことやってみればいいのかとか、小学生に感じるヒントになるのかなと思ったので、イラストに意味を持たすコメントなど入れておくと、その子なりに受け取って、行動の一歩に繋がると思った。県の総合計画のこども版は4コマ漫画風になっていたと思うが、やはり読み手と同じくらいの目線のこども（イラスト）が、「何か言ってる」みたいなのが結構わかりやすさに繋がるのではないかと思う。
半谷委員	目指すことが沢山あるので、これだけいっぱいあるよりもこの半分くらいの方がいいのではないだろうか。
関谷委員長	小学生ぐらいだと、こういうことを町役場の人たち、大人が考えているんだってわかるだけでも意味があるような気もするので、細かいことよりも、こういうことを考えてるんだよということが冒頭にあった方がいいかも知れない。多分子どもの頃は、こういったことを考えてることすら分かっていないだろう。ここで議論されていることが分かること自体が教育として意味があるのでないか。
事務局	小野町のように、まずは全体像として、町としてこういう取組をやってるというものがあった方がいいのかもしれない。今日のご意見だと、小学生向けと中学生向けは中身が違うのではないかという点で、その中身が違うとなったときに、頁数は同じで書き方が違うだけなのか、頁数自体も変わってくるものなのか、人によって違うという意見をいただいたので、学校関係者に相談していきながら、考えていきたいと受けとめている。
関谷委員長	おそらく小学生向けは、役場や大人たちがこういうことを考えてるんだよってことを分かってもらう位で、中学生向けでは中身のことをそのまま伝えてもいいと思う。おそらく、農業、林業とか鳥獣害対策とかは小学校の高学年くらいから学び始めるかと思う。小学校1、2年生では商店街に行って「大人が仕事してるのって何で？」みたいなことから勉強していくくらいかと思う。
	本日をもって委員会は最終回となるが、こども向けの内容については、事務局で再考していただきたいと思う。
	全体的な内容を少々落としながら、端的にして欲しいということと、もう少しわかりやすい言葉がいいということは委員共通でおっしゃっていたかと思う。あと表紙のイラストイメージは何か。
事務局	計画書本編で掲載する写真画像をイラスト風にして、子ども版の表紙にしようとしていた。少々レイアウトを変えることはあるかもしれないが、計画書の本編で使って

	いる絵とか写真をイラストにすることで、イメージとして2つの内容は繋がっている ということが伝わればいいと考えていた。
関谷委員長	それであればその考え方でいいと思う。こども議会は何年生が中心なのか。 小学校5、6年生と中学生（全学年）としている。
事務局	
事務局	先ほど小林委員からあったように、小野町の作成例で、基本目標IからVを1頁にする場合、基本目標I産業づくりがあった時に、その下に目指すことを記載する際に、農林水産業の再興とか新たな産業と雇用の創出という文言ぐらいで終わりなる。現案では(1)から(4)の所まで記載してあるが、このあたりまでの粒度はなくてもいいというイメージか確認したい。
半谷委員	私が小学生の頃、文章化して話すのが苦手で、単語で会話するような感じだった。この基本目標Iのところは結局、賑わいのあるまちを目指すというのが趣旨だと思うが、それなら目指すことをずらずら文章で書かないで、活気と賑わいのあるまちを目指します。そのために町はあれやります、これやりますというのを単語で書いてくれたらこどもたちはそれを目で追いながら理解できると思う。農業の再開という単語があってもいいが、実際何をやっているのかということを追っかけになるような構成で全部まとめていくといいのかと思う。文章よりも単語や短い言葉でやった方がいいのかと思う。
鈴木委員	要するにターゲットは5年生、6年生、中学生くらいなのか。この資料が低学年向けに作っているのであれば今の意見のようになるが、5年生、6年生、中学1年生くらいだと果たしてそれでいいのかとも思う。実際、2つ作るのはどうか。小学生版と中学生版を作るのであれば、そういう議論をしないといけないが、5年生、6年生、中学生向けで作るのであれば、また議論が違うかと思う。
事務局	小学校高学年から中学生をターゲットにすると、もしかしたら中学生くらいになると通常の概要版で対応できるかもしれない、内容を下げた方でよろしいのではと思う。
鈴木委員	学校の先生方の意見が重要になってくると思う。事務局にも具体的に指示をしてあげないと、もっと簡単といってもなかなかイメージがつかみづらいかと思う。
関谷委員長	小学生高学年ということは文章をきちんと読むことができて、ある適度は普通の構成になつていれば理解できるという前提でいいのではないか。
半谷委員	そうするとこのこども版というのは、学校の授業で5年生、6年生に配布することを想定して作るのか。
事務局	ターゲットとしては、なみえ創生小学校5年生、6年生、中学生向けに配布を想定している。
半谷委員	それより下の子たちが目にする機会は、学校に置いてあれば見る程度ということになるのか。
事務局	こども議会が5年生と6年生が対象なのでそういうときに使っていただければいいと考えていたが、4年生以下の学年でも触れて理解できるような内容で作りたいと思う。
関谷委員長	中学校の社会の資料集だと、これよりももう少し詳しいぐらいかなと思うので中学生には通常の概要版を見てもらうのだったら、子ども版は最初から小学校5年生か4年生をターゲットとしてもいいかと思う。もう最初から小学校5年生がメインターゲ

		ットだと決めて、そのように作るのであればおかしくないと思う。
		私の希望としては、この浪江町の復興計画は次世代の育成というか、こどもたちがこの町に定着してくれることが、町としての希望であれば、この子ども版のどこかに、何かメッセージを入れるというのもいいのではないか。ただ単に概要や要約版ではなく、きちんとメッセージとして入れることはこどもたちだけではなく、大人や他の人たちも見るので、そういう視点も工夫して入れていただけるといいかと思う。これは一委員としての意見。
次第3	後期基本計画書（概要版）・（施策編）について＜資料3＞<資料4>	
関谷委員長	・事務局説明	
事務局	前期基本計画の概要版と施策編があって、施策編はほぼ構成が一緒で、概要版の方は数値目標が結構並んでいるというのが前期との違いというところか。	
小林委員	その通り。	画像スペースにはどの様な画像が入る予定なのか。
事務局	例えば、新たな産業と雇用の創出いうところだと、産業団地が新たに整備されたイメージだとか、8頁の下の方にスペースを空けていますが、例えば実際にイノシシなどからの鳥獣被害の課題感があるような現場の写真だったりとか、そういう各施策の課題であったりとか、まさに今取り組んでる様子などの写真、画像などを入れ込むスペースしたい。	
事務局	今回の資料2の計画本体の方にも余白スペースに写真画像等を入れる予定で、概要版で見たときの象徴的なものを抜粋して入れるような形で想定している。	
岡委員	請戸小学校の震災教訓の伝承に取り組むところで、請戸小学校を直接管理しているのは役場ではないし、語り部としてそこにいる方、県外から来た方が請戸の話をしている。外から来た方からは、たまに地元の人の声が聞きたいということを言われる。おじいちゃんおばあちゃんとか、以前は請戸だった人などが、そこに気軽にお茶を飲みに行ける場所、そういう方々が気軽にいるだけで、伝承になるんじやないかと思っており、そこに居てほしい気がする。	
事務局	近隣でパークゴルフ場の整備も予定されているので、以前の町民で避難した方も戻ってきたりしている。気軽に寄っていただいて、来館者の話なんかもしていただけるように指定管理者とも話をしてみたい。	
関谷委員長	63頁の右上、左側だと3番目。ここを具体的にどう充実させていくのかということかと思う。	
岡委員	今、震災から14年が過ぎて、震災を知らないこどもたちに震災の体験を教えて欲しいといった依頼が多くなっている。小中学校、あちこちから声掛けいただくが、何か私達が話すことによってそれが教訓になればいいと思っている。私達じゃなくても体験した人なら皆さん喋れると思う。あの時の思いを伝えられると思うので、浪江町としては大事なことかと思う。	
事務局	資料2でいうと63頁の9行目、加えて、資料4の施策編の24頁の（1）の（ウ）のところでも掲載させていただいている。今いただいたご意見も含めて、今後の施策検討に反映させていきたい。	
岡委員	生涯学習として語り部を育成するということで、今、会を設けて、紙芝居の読みな	

	どを行っている。さらに若い人に向けて発信していくのが大切かと思っているのでどうぞよろしくお願ひしたい。
関谷委員長	特に町民の語り部の積極的な育成、活用、充実を行い・・位に、ちょっと強めに書いていただければと思う。
半谷委員	本文中の難しい言葉の注釈などはどうなるのか。
事務局	後期基本計画の後に、資料編を作成予定であり、そこに用語集として入れて、本文中のわかりづらいような言葉とか専門用語はそこで説明がつくような形にしたい。
鈴木委員	インクルーシブとか、インスペクションとか、普段馴染みのない言葉が結構あるような気がした。あと掲載表中の文言の末尾が消えているようなところが結構あると思う。全部点検してもらいたい。
葛西委員	施策編については、計画書本文と連動しつつ、これを見ながら次の事業を考えていくような、主に役場の方が見る資料みたいなお話があったと思う。せっかくここまで大事なことがいっぱい書かれているのに、結局、書物として出来上がった後は何も見ないような状況にならないことが大事だと思っている。役場の方はこの施策編を見て実行していくことになると思うが、町民もそれを読んで何かやるときに、役場と一緒にあって、ここに書いてあるこれを考え方みたいな、何かそういったことを考えるワークショップ等の機会があるのか。もう1点確認したいが、以前関谷委員長からも、「魂」というような言葉があったと思うが、やはり魂を吹き込んでいかないと、こういった計画書は使われないとと思う。ちなみに、双葉町のイメージカラーは緑だという話を聞いたが、浪江町は青だという印象があるが、今回緑でよいのか。
事務局	浪江の色として規定はしていないが、浪江町は青というイメージはある。職員の名刺等も青を使用することが多い。町章は青にしようと考えている。
関谷委員長	今回は緑系配色になっているのは何か意味があるのか。
事務局	前記計画があった上での後期計画なので、基本のデザインは変えない方向性である。ただ、前期計画は紺色基調で作っていたため、手に取ったときに後期計画と分かるように、緑色基調への変更を想定している。
関谷委員長	ロゴマークは、組織によっては一定のこだわりがあつたりする。トヨタでは会社ロゴは触ってはいけないと決まっており、キリンなどはキャラクターが追加されてもよいなど、組織によって違いがある。
事務局	町章はこれまでの復興計画や町の資料を青色にしている経緯もあり、青色で統一していきたい。ただ、資料編など白黒で印刷しているものについては白黒になってしまうが、カラー印刷するものに関しては青色で統一していきたい。
関谷委員長	子ども版には町章が入っていないが、入れる予定はあるのか。
事務局	入れていきたい。また、先ほど葛西委員から施策編の使い方、ワークショップなどの活用の機会があるのかについて質問いただいたが、必要な場合には使っていただけるよう庁舎内でも活用を促していきたい。
関谷委員長	町章やイメージカラーなどの議論については、町のアイデンティティにも関わってくるので、引き続きどこかの場で議論していただければと思う。
前司委員	5年後にはまた復興計画を全面的に作り直すことになるが、問題の解決を掲げても10年、20年かけても解決できない課題が出てくると思う。これに対して町はどのような考えを持っているのか。支援から自立していくようなところもあると思うが、解決

	しない部分については引き続き支援していくことになるのか。
事務局	現時点では復興の途中という認識で、支援が必要なところには支援をしていく。ただ今後は、やはり自立、自走してもらうことが基本であり、そのような視点を入れながら支援を続けていきたいと考えている。今後環境や状況が変わってきた時点で、よく状況を見ながら支援から自立に切り替えるなども対応していきたい。
前司委員	5年後には復興庁が無くなり、国も県も復興という言葉を降ろしたときに、浪江町がどのように考えるのか。今後の5年間は復興計画を総合計画として、「支援」ということで進めていくと思うが、次の期間ではどのような方向性にするのか議論になると思う。例えば広野町は既に復興計画という名称ではなくなっており、ステージも変わってきているので指摘させていただいた。
関谷委員長	本日をもって本策定委員会の全日程が終了した。こども版についてはまだ作業が必要な部分があるが、委員の皆様には毎回長時間に渡り、ご出席いただき、誠にありがとうございました。浪江町の最も重要な最上位計画であり、引き続きこれをどのように活かしていくのか議論していっていただきたいし、町民としても活用ができるかチェックしていただきたい。
次第3 事務局	その他 本日いただいたご意見等については、今後、事務局内で修正対応等させていただき、最終的には関谷委員長一任にて、年内の計画書類の完成を目指したい。 来年1月には当委員会を代表し、関谷委員長から町長にご説明いただく予定としている。

以上